

株式会社ワークマン 2020年3月期第3四半期 決算説明会 質疑応答集

マスコミ、証券アナリスト、機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただきましたご質問をまとめたものになります。一部内容の加筆修正を行っております。

Q.売上高増加に伴いシステムのスペックやキャパシティは不足していないか

A.基幹システムの管理はグループ会社の「ベイシア」に業務委託しており、月に一度、各グループ会社の情報システム部門が集まりグループシナジーで今後の対応を行っております。現在のところクラウドでのキャパ拡張に取り組んでおります。

また、外部システムである需要予測発注システムは全店稼働のキャパがない為、今後改善を行い全店稼働に取り組めます。

Q.プライベートブランド製品開発のSKU管理体制を教えてください

A.スーパーバイズ部（販売）分析チームと商品部（企画）、生産管理チームで分析を行い管理している。季節品についてはシーズン内追加生産を検討しており、在庫内容の改善に取り組めます。

Q.SPA（製造小売）に取り組んでいるが、今後は紡績会社と共同開発などは行うのか

A.現在のところ自社オリジナル生地の開発には至っておりません。小規模ではあるが中国の生地メーカーとレインウェア生地の開発を行っており、今後は国内の商社と共同で「ワーキング」の機能性に注目しワークマンオリジナル生地開発を検討していきます。

Q.ワークマンプラスへの改装計画について

A.全面改装は売上高前年同比約2倍と高い効果が出ている反面、簡易的な部分改装単体では情報発信力が乏しく思った効果が得られておりません。全面改装や新規出店と合わせて進めることでパフォーマンスを高めていきます。また、ワークマンプラスへの改装によりワーキング売場を圧縮陳列にする関係上「プロ顧客」が一旦は離れる傾向にあるが、徐々に戻ってくる傾向にあり、部分改装店舗も効果が現れてきている。

今後の方針は「チェーン全体の底上げ」を念頭に客層拡大による売上増加が見込まれる店舗を中心に改装を進めます。

Q.中国新型コロナウイルスの影響や生産工場分布、更なる拡大時の対応について

A.

【縫製工場】

自社工場は持っておらず、契約している協力工場は中国全土に渡っております。発生地である武漢には1社工場がございましたが、現在は他の工場へ生産を移管しております。

(今期P B製品の約67%が中国で生産しております。)

【直近の影響について】

春夏商品の約50%は国内に入荷しており、残りの製品につきましてはほぼ縫製は完了し最終的な外部検品が未了となっております。現在(2020年2月7日)は今後の入荷スケジュールを調整しております。

4月にセールを企画しておりましたが、セール商材の入荷遅延が見込まれる為セールを延期し5月に開催する予定です。

【長期的な影響について】

さらなるウィルス拡散を抑制すべく中国国内のヒト・モノの移動に制限がかかる恐れがあります。縫製工場の問題だけなら東南アジア諸国へオーダーを出すことが出来ますが、生地や付属といった資材は中国への依存が高くなっており、生産や物流での遅延が見込まれます。早期に全容把握を行い、今後の業績に関して多大な影響を及ぼす事態になる場合は、改めてリリースをさせていただきます。

Q.在庫増加の要因について

A.前期の秋冬商戦で主要3ブランドの防寒衣料を中心に大規模な欠品があり、お客様に大変ご迷惑をお掛けしました。今期の取組みとして前期の反省を踏まえヒット商品を中心にシーズン晩期まで販売出来る在庫量を確保しました。また、暖冬の影響で東北や日本海側での降雪、積雪が少なかったことも要因となります。「継続販売」を基本方針としており値引き販売は行わず来期も定価で販売します。

Q.楽天市場撤退について

A.F Cチェーンであるため「店舗受取」を推進する新サイト構築に以前から取り組んでおりました。今回の撤退は3/16よりオムニチャネル型のClick&Collect新通販サイトを運営するためです。

以上